



落合小の「かがやき」・・・ かんがえる子 がんばる子 やさしい子 きたえる子

落合小学校の目指す学校像

すべての人が幸せになる学校

<読書感想文コンクール>「本を読んで作文にする」しんどい課題に挑戦

夏休みの募集作品の中に読書感想文があります。「読書感想文」と「明るい家庭づくり」のどちらかを書くことが必須課題でした。どちらも正直しんどい課題です。夏休みの課題の中でも最後に回す人も多いのではないのでしょうか。作文を書く力は、将来どうしても必要となる力です。生成AIで作文を書くこともできますが、自分の力で文章を書かなければならない場面が必ず訪れます。自分の頭で作文を書くためには、普段から文章を書くことに慣れること、そして、優れた作文を読むことも重要です。今年度の審査会で「金賞」に輝いた2名の感想文を紹介します。

『いのちの食べかた一だれも教えてくれない、世界のヒミツ』著者：森達也

「知ろうとすることは変わろうとすること」 6年 藤堂 夏帆

「大切なのは知ることだ。」繰り返し出てくるこの言葉について、私は考えてみることにした。

夏休みに広島平和記念資料館を訪れた。行く前はどのようにしてそんな所に行くんだらうと思っていた。それが言葉に出てしまって、両親から「よかれと思って今回の旅行を考えたんよ。いろいろな物事の先には相手がいることを分かりなさい。」

と叱られた。最初は旅行について計画してくれてお金を出してくれた両親のことだけ思って、自分の言葉を反省した。でも、実際に資料館に行って、この本を読んで、「いろいろな物事の先には相手がいる」ということや、「大切なのは知ること」ということが分かった気がする。

私たちが普段食べている肉や魚は、お店できれいにパックに入れられて売られているので、そのどれもがもともとは生きていた命だと考えながら買い物をするのではない。家族で釣りにはよく行くので、魚についてはその命をいただいているという実感はわく。でも肉については、それがどこで、どうやって作られているのかについて知ろうとしなかった。そして、私は肉料理が苦手だ。給食で出てきたら頑張って食べるけど、家では弟や父にあげることにしている。その肉について今まで考えることはなかった。私が夏休みの宿題で作ったゴーヤチャンプルに使った豚肉も、お店で売られる形になるまでにどれだけの人が関わったのだろう。名前もどんな人かも分からないけど、私たちがおいしく食べられるように工夫してくれている。「いろいろな物事の先には相手がいる」ということなのだろう。

戦争についても同じことが言える。日本が昔、戦争をしていたことは知っている。原子爆弾が落とされて、たくさんの方が亡くなったことも知っている。約十四万人の方が亡くなったと資料で読んだ。でも、テレビで見るとどこか遠くの国の出来事のような感じがして今まで戦争について考えることはあまりなかった。資料館には、焦げたお弁当箱や服、三輪車があった。その持ち主一人ひとりの名前も書いてあった。その人の苦しさや悲しさ、またその家族の気持ちを想像することができた。爆弾が落ちるまでは、私と同じように家族と過ごしていた人がそこにいたということが分かった。

お肉のことも、戦争のことも知らなくても特に困ることはないかもしれない。でも、今の環境に慣れてしまったり前じゃないことが当たり前になって、感謝の気持ちを忘れてしまったらいけないと思う。だから、私も今まで知ろうとしなかったことも、知ろうと思う。知ること、自分の生活や態度を振り返ろうと思う。



「言わなければ、伝わらない」 5年 酒井 雄士

「言っても、きっとむりだ」

ぼくは、自分の意見を言う前から、あきらめてしまうことがあります。けれども、『おれたちはギロンする』を読んで、その考えが変わりました。

初めて題名を見たとき、「ギロンって何だろう」と思いました。聞いたことはあっても意味を知らなかったもので、興味をもち、この本を選びました。

主人公の陽太は、初めはギロンのことを知らず、芽衣に反論できませんでした。自分の考えもうまく伝えられません。そんな陽太を見て、「自分とにている」と思いました。ぼくも国語の授業で自分の考えを書いたり、話し合いで意見を言ったりすることが、あまり得意ではないからです。

読み進めるうちに、一番心に残ったのは芽衣でした。芽衣は自分の意見をはっきり伝えるだけではなく、相手の考えにも向き合います。初めは少し強く言いすぎているようにも感じました。でも、芽衣が本気で意見を伝えたからこそ、陽太も変わろうと思ったのではないのでしょうか。ぼくは、自分の考えを言うことからにげない芽衣がすごいと思い、「ぼくも芽衣みたいになりたい」と思いました。

陽太は、動画を見てギロンのポイントを勉強し、何度もギロンしました。失敗しても挑戦し、少しずつ自分の考えを伝えられるようになる姿を見て、「努力すれば、ぼくも変わるかもしれない」と思いました。

ぼくは、四年生の理科の実験を思い出しました。役割を決めるとき、ガスコンロにガスボンベをはめる役をやりたいと思いました。少しこわかったけれど、むずかしそうだからこそ挑戦してみたかったのです。

話し合いが始まり、「やりたい」と言おうとしました。けれど、ほかにもやりたい人がいると思うと、急に自信がなくなりました。「ぼくが言ってもむりだ」と考え、迷っているうちに役割は決まってしまいました。実験が終わったあと、「言うだけでも言ってみればよかった」と後悔しました。

この本を読んで、「あのとき芽衣だったら、どうしただろう」と考えました。芽衣なら、まず自分の希望を伝え、ほかにもやりたい人がいたら、その人の考えも聞いたと思います。そして、交代でやるなど、みんなが納得できる方法を考えたかもしれません。希望がかなわなくても、自分の気持ちを伝えることと、相手の考えを聞くこと、その両方が大切です。

ぼくは陽太のように、苦手でもあきらめずに努力したいです。そして芽衣のように、自分の意見を伝えながら、相手の考えにも向き合える人になりたいです。

意見を言っても、希望どおりになるとはかぎりません。でも、言わなければ気持ちは伝わりません。これからは「どうせむりだ」とあきらめず、まず自分の意見を伝えたいです。その一言が、ぼくを変える一歩になると思うからです。



<読書感想文審査結果>

- 金賞 5年 酒井雄士 『言わなければ、伝わらない』
6年 藤堂夏帆 『知ろうとすることは変わろうとすること』
銀賞 3年 榎本健介 『自ぜんと生きものをやさしく』
4年 笹井彩加 『わたしの大切な人の笑顔』

銅賞

- | | |
|------------------------|---------------------------|
| 2年 谷口美月 『ま女トパーズの大切な言ば』 | 2年 若田拓実 『ぼくの気もちと友だちの気もち』 |
| 3年 大田虎太郎 『けいけんこそ宝』 | 3年 尾崎瑛友 『もしぼくがぶたすけだったら』 |
| 3年 河本昌己 『おもしろいいえ』 | 4年 杉谷優詩 『あきらめない心』 |
| 4年 山本一穂 『くやしい思いをのりこえて』 | 5年 田島蓮三 『あきらめない』 |
| 5年 永田結衣 『一つの命』 | 5年 国本楓華 『動物だからといって』 |
| 6年 杉谷優妃 『失敗は終わりじゃない』 | 6年 福原沙彩 『あなたの考え、ほんとうのこと?』 |